

みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
 社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197
 URL <http://midori.jpn.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

編集責任者：理事長 中村 猛
 編集：季刊誌発行委員会

第12号所感

理事長 中村 猛



皆さんこんにちは
 新緑が目鮮やかな季節を迎えて
 おります。

アメリカの大統領選挙は共和党の
 デッドヒートが続き、とうとうゴール
 デンウィーク明けの決選にもつれ
 込んでおります。

今夏の中国北京オリンピックに
 チベット問題が浮上し、聖火リレーの
 各国に抗議運動が過熱したニュースが
 流れております。わが国ではこの4月からガソリン税の暫定
 税率が中止され食料不足から諸物価の高騰が続くなか、唯一
 ガソリン価格が下がっていますが、国会審議では、又、元に
 戻る可能性を秘めております。

一方4月からの医療における診療報酬改定は打ち続く医療費
 抑制の方向がとられなんら医療崩壊の対策が見られないもの
 となり、医療機関の疲弊、倒産、医療スタッフの現場からの
 離散が続くものと思われまふ。

いま国も地方行政もその財政難の解決に向かって、改革を
 旗印に各部門予算のカットに走っております。しかし、最も
 痛みを分かたず遅延しているのが行政改革であいましょう。
 民の補完たるべき官の世界で、民が汗と努力で得た収入に
 比較して国民の税で原価のいらない収から、その支出の使途・
 配分を行ない、その業務に結果責任を負わない、行政のシス
 テムを改革しないと税金の適正化、無駄遣いは止めようがなく、
 財政再建は極めて難しいと考えられます。

医療においてしかりで、現在のわが国の医療費の総枠が
 低いのは勿論ですが、その配分に於いても不適正であり
 現場のハード面、人件費へのパイが大変とぼしく、これ
 では現場のインフラ、医療人の育成は困難と言わざるを
 得ません。

自然は毎年絶えず循環を繰り返す、大気を、清く大地を
 豊かに、水を純く、絶えず再生に向かって新緑の
 萌えるこの季節、我々の人間社会も、やはり自然の大循環
 のルールを踏まえて明るい夢ある社会づくりに努力して
 いきたいものです。

この対外的な我々の季刊誌“みどりの風”もこれで3年
 12号の発刊となりました。絶えず”初心”に帰り、社会に
 より良い医療福祉サービスの提供に我々ができるところから
 取り組み実行に移したい、又、可能な限り自然体で有り
 体に気取らず、おごらず、社会貢献の志をもって頑張っ
 てまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げ
 ます。



医療法人 みどり会 平成20年度入社式 社会福祉法人 松樹会

さる、平成20年4月1日(火曜日)中村病院にて平成20年度
 入社式を挙げていたしました。

今年度はサテライト なごみの里オープンの為、新入職員
 は27名の出席となりました。
 業種別は下記の通りです。

理学療法士(5名) 作業療法士(3名) 言語聴覚士(2名)
 介護福祉士(12名) 社会福祉士(2名) 介護職(3名)

入社式終了後は各施設でオリエンテーションを実施し、
 夜には場所を変えて新入職員歓迎会を開催し盛大のうちに
 終了。

人事部・廣江



■ 副院長就任ごあいさつ

副院長 高橋 輝



この度 4 月 1 日付をもちまして中村病院副院長を拝命致しました。若輩にてもとより微力ですが専心努力致す所存です。この 4 月には後期高齢者医療制度や特定健診・特定保健指導など新たな取り組みが始まっておりますが、その中で厚労省が定める 4 疾病 5 事業に関する医療計画を都道府県が作成する制度も開始されております。当院と致し

ましても、医療計画に求められている機能を発揮し、地域に求められる病院づくりを行っていく必要があります。その 4 疾病の 1 つに私が専門とする糖尿病が挙げられています。昨年、前職の済生会野江病院勤務時より研究を行っていた論文「インスリン治療開始後の肝障害について検討」が日本糖尿病学会誌に掲載され、今年度中に糖尿病専門医の上級資格にあたる研修指導医の取得へ向けて申請できる運びとなりました。併せて中村病院を日本糖尿病学会認定教育施設とすることも可能となり、枚方市に

おける糖尿病センターとしての役割を果たす所存です。また当院の役割としては、いわゆる基幹病院ではできない地域の病院としての役割も求められるところです。急性期を担う基幹病院はDPCによる疾患別治療と在院日数の短縮が求められます。しかし、高齢者は複数の疾患を抱え、治療による回復も遅くなりがちです。DPCを採用している病院では主病名以外の検査をし在院日数が長くなると損をするため、検査はできるだけ外来にて行い退院も早期に促されます。移動が困難な高齢者が入院前後に何度も外来受診することがいかに困難で、退院後の在宅復帰や施設入所までの期間がどれほどかかるかは考えられていません。その点、当法人は急性期・回復期・慢性期の全ての機能を有しており、在宅医療や介護福祉施設への橋渡しを行うことが可能です。患者さんとその介護を行うご家族に対して、全人的医療と包括的支援を行う“地域総合病院”として皆様のご期待に応えられる病院づくりに邁進致す所存です。

■ 新任医師紹介

顧問 精神科医師 林 幹夫



日々に淡い若葉が緑を増しています。いい季節です。

大阪の中心地からは北に位置する、生駒の丘陵の北端の地にある人口約50万人の都市といえるところにあります。

実感するには時間はかかったものの、大小の大学があり、かつ情報化が進み都市化があり、地域としての病院および多施設はいわゆるホテル並みの内容をもっています。現在の医療の動向に

沿ったものであるかと思いますが、この動向は当面紆余曲折が見られると思われ。地域、ひいては日本の伝統的な感覚が失われ、医療制度に基づく医療費制度は十分ではないところがあるものであって、日々努力が必要であるように思われます。その意味で何らかの病院、多施設のためには、何が役立つかを考えながら、より広域的な

背景において努めていくようにしたいとの気持ちであります。

本来基礎的なところから現状を20-30年という単位で観ているところもあり、その周期的な時期かとも思うこともあり、その観点から見て、予防、早期発見ということが言われている時代であって、かつ地域で患者・家族をいかに見ていくかということも重視されてきてきているわけです。こうした折であり、スタッフ共々と模索をすることの可能性があると考えています。大阪は、「治してなんぼ」という土地の風土であります。「喜んでもらって、なんぼ」ということであります。こうしたところに呼応するように出来ればと内心では期待をしています。

そうではありますが、個人的には山を歩き、その静寂な空間が好きなかもしれません。日々の仕事とともに、自然との時間をもって健康であって、いわゆるストレスからこころの調整を図っていくことが必要なときかもしれません。

今後みなさんのご協力をお願いします。



中村記念病院

■ 高齢化社会でのリハビリテーション

管理医師 泉 知子



中村記念病院のリハビリガーデンから北摂の山々が美しく見える新緑の季節になりました。あわただしく勤務している私には心が癒される風景です。

私自身を紹介しますと、枚方市で中村理事長の長女として生まれ、小学校から高校まで、まさにこの枚方市長尾地区で過ごしました。大学は親元を離れ川崎医科大学に入学し青春を謳歌し、卒業後同大学の形成外科教室に入局しましたが、枚方の地に戻り、リハビリテーション、訪問医療を中心に父の中村病院を手助けしていました。しかし、興味のあった美容外科手術がしたくて、中村病院を離れ、9年間、京都・名古屋・東京と思う存分手術を行ってきました。けれども、子供も生まれ、私が育った枚方で子育てをしたくて再び戻り、昨年の12月から、この中村記念病院で大川先生、笠井先生とリハビリテーション医師として働いています。

長い間外来患者様中心の医療を行っていた私には、中村記念病院の回復期リハビリテーションにて在宅復帰をめざす入院患者様を受け持つ医療を行う喜びもありますが、一方、つらく悲しい思いもしています。それは、エレベーターのない団地にお住まいになっている独居の高齢者が多く、在宅復帰がかなえられない事、独りで何種類ものお薬を飲みながら不安な生活を送り、自宅で誤って転倒され大腿骨を骨折される女性の高齢者が如何に多いこと、このような今まで知らなかった日本の社会事情を知ったことです。夜中にこれからの日本の高齢者社会を考え、横でやすやすと寝ている子供の将来を考えてしまうと寝られなくなってしまう事もあります。しかしこのような時代だからこそ、この回復期リハビリテーションの医師として私が役立つこともあるだろうと思い、今では、関西医科大学リハビリテーション科の吉田教授、佐々木医師の協力を得ながら、整形外科疾患の患者様の主治医として在宅復帰に向けて看護師・リハビリテーションの技師・MSWともチームワークを組んで頑張っています。

これから高齢化社会で、一人でも患者様が安心して自宅にお帰りになられるように、私自身一生懸命頑張っていきますのでよろしくご指導お願いします。

■ サテライトなごみの里 ユニットケアについて

事務長 山中 昭 男



サテライトなごみの里はユニットケア型の施設です。ユニットケアとは一人ひとりの個性を尊重し、10個室のグループを生活単位（ユニット）として少人数で、家庭的な雰囲気の中で個別に介護いたします。このユニットケアの良い面は、プライバシーの守られた空間を持つことができ、少人数のグループによる利用者のリズムに合わせた生活が

送りやすくする点です。反面、個室ゆえに職員が目が届きにくい、料金が従来型よりも割高で、少人数故利用者間のトラブルも考えられるのではないかとされています。この形式は老人保健施設では最近取り入れられた形であります。従って、正しい形があるとはいえないのが現状です。

当施設がユニットケアに取り組むに当たり、既に、取り組んでおられる近隣のユニット型介護老人保健施設である滋賀県の1施設、門真市内の1施設（従来型をユニット運営）を見学しました。どちらの施設も試行錯誤しながら、利用者のためにどうすればよいかを真剣に取り組んでおられるのを見て、大変参考になりました。

見学前までは施設の構造、仕事の流れ等を中心に検討がなされていましたが、見学報告では職員の取り組む姿勢、管理者の考え方が参考になったという報告でした。

サテライトなごみの里では、一番に取り組むべき課題はユニットケアをうまく回していく事ではなく、「利用者のために何をどのようにするのが最良なのか？」を常に考えられる職員を育てることであると思っています。また、施設の数だけそれぞれのユニットケアのやり方があると感じ、『ユニットケア』と言う題目にとらわれず、利用者がより良い介護が受けられ、在宅復帰に結び付けられる施設にしたいと思っています。



サテライトなごみの里 10月開設予定イメージ

■ 通所リハビリテーションの充実

理学療法士 主任 山田 浄 明



ここ近年、介護難民やリハビリ難民という言葉がテレビや新聞で目にします。

それらの単語は、近年の厚生労働省の意向によって、病院等、医療機関の利用に制限ができたという背景から出てきたと思われま。

リハビリテーションでは、病院でリハビリテーションを受けて在宅復帰し、その後も継続の希望があっても、外来リハビリテーションには制限があり、希望通りには受けられないこともあります。

それに伴い、病院の外来リハビリテーションから、介護老健保健施設でのリハビリテーションを継続するという方向に変化しています。

なごみの里でも、今年4月に、リハビリテーション科スタッフを増員しました。新入職員3名、人事異動で2名がそれぞれ増員し、今までの6名体制から、5名増員し、11名体制となり、より利用者様の生活に合わせて、希望される曜日や利用回数での受け入れ、利用者様一人一人の問題点に個別に対応し、充実したリハビリテーションサービスの提供が可能になる計画を考えています。

また、法人内、外の病院・施設や地域との連携強化を図って、リハビリテーションのより良い受け皿として一人でも多くの利用者様に不安・不満のないサービス提供を目指していきます。

今後もなごみの里通所リハビリテーションをよろしくお願い致します。

枚方市地域包括支援センターみどり

■ 高齢者虐待における地域と医療のネットワークの必要性

看護師 米澤 恵美子

高齢者虐待防止法が平成18年に施行されて以来、各地域で虐待防止セミナーが相次いで開催されている。その周知により介護関係者をはじめ、民生委員や、地域住民の方からの通報が増えている。しかし、残念なことに医療関係者からの通報件数について数値的变化は無いように思う。

虐待にもさまざまな種類があり、身体的、経済的、ネグレクトなど。そういった問題を無言のサインとして私たち介護や医療関係者は察知してほしい。そしてその時点で、地域包括へ連絡し繋げてほしい。

そうすることで虐待のエスカレートを防ぐことができる。地域包括と医療の連携で、被害者の身体的治療のみならず、保護することで加害者との距離がとれ、治療的関係が成立していくのである。

加害者も止まりを知らない苦悩の中で苦しみ出口を見出せずにいる。介入のタイミングの難しさはあるが、被害者との分離の際は医療が関わり、双方への精神的カウンセリングなどの治療が施されることで、関係性の修復を期待し、住み慣れた街での暮らしを続けてもらいたい。

医療・地域の連携で皆が笑って暮らせるそういった街、そういった地域にしていきたい。



社会貢献と社会福祉法人の役割

いこいの里 施設長代理 岡 崎 基



すっかり春らしくなり、新緑の若葉も萌える季節となりました。いかがお過ごしでしょうか。

社会福祉法人 松樹会も心機一転新しい年度を迎えております。さて、今回は社会福祉法人の役割と開かれた施設に向けてお話できればと思います。そもそも社会福祉法人制度は、社会福祉事業法によって創設されましたが、介護保

険制度の導入や、団塊の世代の方の介護の必要性が高まるにつれ福祉サービスの要望も多様化してまいりました。特に、有料老人ホーム（特に介護専用型）も介護保険制度の開始以来目覚ましく増加の一途であります。特別養護老人ホームもユニット型の開設が目立ちどちらも個室による福祉サービスということもあり、

申し込みに来られ方も違いに戸惑いを大いに感じられていると思います。確かに、施設の設備の面やサービスの面などを見てもその違いは明確には分かりにくい事でしょう。

このような中「社会福祉法人の公共性はどのようなものか」というのも考えさせられています。現在、高齢者一人暮らし世帯が増加しており、地域の中で暮されている高齢者の方や、高齢者虐待防止法の施行により緊急性の高い方の施設への利用が今後ますます増えていくものと思います。このような、収益性とは違う公益性の配慮も今後考慮していかないといけないのでは考えます。まずは、身近にご家族や近隣地域の方を交えた地域交流や地域イベントなどの活動を通じ、地域社会の中の施設の運営を今年度の活動目標として取り組んでまいります。

糖尿病教室無料開催

毎月行っていました糖尿病教室を4月より無料開放致します。毎回一つのテーマについて詳細にお教え致し、1年間で一通りの知識を取得して頂く事を目指しております。当院以外の患者様でもご自由に参加して頂けますので、ご興味のある方は是非ご参加下さい。

< 講義内容 >

5月26日(月) 糖尿病の分類

6月30日(月) 糖尿病網膜症

7月28日(月) 糖尿病腎症

場所：中村病院新館4F 食堂・談話室
16：00～

「みどり保育所」開設のご案内

3月17日(月)に、みどり会と松樹会に勤務されます職員の方々の可愛いお子さん(主に0歳児～3歳児の乳幼児)で、通常はご家族での育児や認可保育所等での保育を受けておられても、ご家庭の用事や保育所等の休園などで、一時的に保育を受けることができなかった場合、そのお子さんを一時的に保育し、これまで以上の働きやすい職場環境を図ることを目的としてみどり保育所が開設されました。

現在、保育経験の豊富な保育士(3名)が、保育利用日に合わせて対応しています。既に、5人の職員のお子さん(合計6人)が一時保育を利用されています。みどり保育所からは、可愛く元気な声が聞こえてきます。職員の皆さんの中に、該当されますお子さんが居られましたら所属の院長先生や事務長さん等にお問い合わせください。

(記 人事部 福林) みどり保育所 072-850-9415



平成20年度 みどり会 松樹会 運営方針発表

4月の経営会議において法人理事長はじめ、各施設の責任者から昨年度活動報告と今年度の運営方針の発表がありました。「患者様中心の医療」「学習と成長」「財務」の重点項目に沿って地域急性期病院としての医療の充実、今回の診療報酬改訂への対応、在宅医療(訪問診療等)、医療安全、均一な回復期リハビリテーションの提供等に取組みます。

方針を受けて各施設職員からのボトムアップでより具体的な行動計画を作成し、ベクトルを合わせた活動を通じて医療・健康・福祉の分野で地域貢献できるよう目標に向かって力強く取り組んでいく決意を致しました。(記 松田)

新入職員紹介

法人本部 渉外部長代理 野 村 恵 章



平成20年4月16日付で法人本部 渉外部長代理として、働かせていただくことになりました。全く、経験のない分野での仕事ではありますが、このご縁を大切に受け留め、諸先輩のご指導をいただきながら、スタッフの一員として頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

各施設連絡先

社会福祉法人 松 樹 会

特別養護老人ホーム いこいの里 072-898-2197

居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196

つくしんぼ 長尾 072-868-2190

デイサービスセンター 長尾 072-868-2190

有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190

つくしんぼ 藤阪 072-868-2191

たんぼぼ 藤阪 072-868-2197

鍼灸接骨院 つぐみ 072-836-8280

医療法人 み ど り 会

中 村 病 院 072-868-2071

地 域 医 療 相 談 室 072-868-2071

中 村 記 念 病 院 072-868-2070

な ご み の 里 072-868-2072

配食サービスセンター なごみ 072-868-2072

た ん ぼ ぼ 長 尾 072-868-2195

訪問看護ステーション みどり 072-868-4392

訪問介護ステーション みどり 072-868-4392

枚方市地域包括支援センター みどり 072-845-2002

み ど り 保 育 所 072-850-9415

—— 編集後記 ——

桜も散ってしまっていて、新緑のさわやかな季節になりました。とくに雨上がりの新緑は心をなごませる感じがします。今年も多くの新入職員を迎えることができ、法人にも新しい風が入り医療・福祉分野での活躍を期待したいものです。みどりの風も12号で3年間に渡って一読いただいたことに感謝申し上げます。今後ともよろしく御指導の程お願い致します。

季刊誌発行委員会
連絡先 ☎072-868-2071
法人本部 松 田